

カハニア



指定障害者支援施設

さやま園  だより

GOOD DAY SUNSHINE PROJECT!

さあ、エンパワーメントしましょう

学校時代に自転車に乗って、毎日校庭やご近所を走り回って居た、という活発な方がいらっしやいます。

若いころ、食べ物屋さんを手伝って、簡単な料理の下ごしらえはお手の物という方がいらっしやいます。

ご自宅にいらした時には、毎日のように近所の商店街にお使いに行っていましたよと言う、お手伝い名人がいらっしやいます。

作業所の帰り道、気の合う仲間とマックによってお茶して帰るのが日課でした、と懐かしげに話す方もいます。

ご近所両隣はみんな顔見知り、一人で留守番もへっちゃらでした。道順は一回で覚えるから、迷子にはならないの。

様々な力や経験を持って、ゆえあってさやま園へ入所されたみなさま。それまで培っていた社会性やリビングスキルは、今どうしていますか。

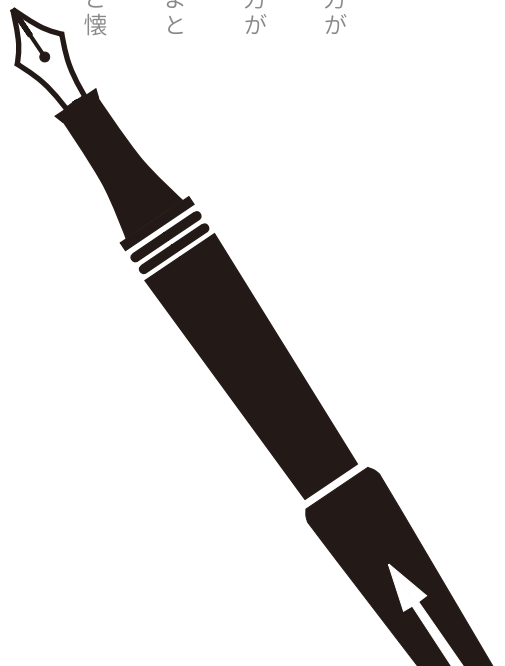
Empowerment(エンパワーメント)よく聞く言葉ですが、私には今一つ概念がはつきりしません。もともとある能力がその周りの障壁によって発揮できずにいる、だからまわりの支援者は発揮しやすいように環境調整するなどの支援が必要なんだ。要約するとこのようなことでしょうか。

極端なことを言えば、施設そのものが障壁になっていて、エンパワーメントが発揮できないでいる？パワールessな状態なのでしょうか。今年のさやま園の目標の一つが、「利用者、職員のセルフエスティームをあげる」と言うものです。私は役に立っている。私には力がある。私は、私自身が好きだ。この気持がやる気をみなぎらせ、意欲的に、そして前向きに物事取り組む原動力になります。

文頭に挙げた例は、まさに利用者のみなさんのセルフエスティームをあげるのに、十分なエピソードです。

私たちの支援は、現在の安心安全を守るだけでは、前進したことはありません。現状維持はすなわち後退だ、と言った方もいます。

ちょっと冒険、少し挑戦、心配でも任せましょう、不安でも信頼しましょう。そこから生まれるエンパワーメントは飛び切りの価値を持って、輝いているはずですよ。



さやま園 よもやま話 PART1

「あの頃は…」座談会

さやま園は昨年50周年を迎えました。

今回は、さやま園歴50年の大ベテラン、大越さん・瀬戸さん・松倉さん・支援員の小澤さんに若かりし開園当時の生活の様子を語っていただきます。

小澤さん：今日は、開園当時の話をしてもらいたいと思います。最初の生活はどうでしたか。

松倉さん：はじめはちよつと汚いなと思った。あまり人がいなかったよ。

瀬戸さん：そうそう、どんどん増えて、職員も増えたのよね。

大越さん：ずいぶん、古いなあと思っただ。雨漏りがしていて、雨が降るとバケツを持ってあっちこっちに置いて歩いたよ。

小澤さん：そうそう、外は水溜りがいっぱいだったよね。

建物の中にも夏は暑くて首にタオルを巻いていたし、冬はジャンパーを着ていたよね。新しい建物になってもその癖が抜けなかったよね。

瀬戸さん：霜焼けができたのよね。

大越さん：手とか足とかね。

小澤さん：紫色の薬を塗っていたよね。洗濯も手洗いだっただしね。

大越さん：そう、洗濯板でゴシゴシ。桶に水を汲みながらね。

松倉さん：みんな、やっていたよね。
大越さん：洗濯場から干し場が遠かったよ。

瀬戸さん：お部屋からもね。グルーッと回らなくちゃいけなかった。

小澤さん：今も洗濯場から干し場が遠いのはその時の名残かもね。掃除もよくやったよね。古くても掃除は行き届いていてピカピカだったよね。

松倉さん：長い廊下があって、みんな雑巾がけをした。

瀬戸さん：おトイレの数も少なかったのよ。

小澤さん：お風呂も小さくてね。お風呂待ちがあったよね。トイレは、水洗と汲み取り式の中間のようなものだったけど、とてもきれいに掃除をして使っていたよね。掃いて、拭いて。朝夕に掃除をしていたよね。その点今は、きれいで快適な生活が出来ているね。

みなさん、とても働き者！この頃にしつかりお掃除を習得されたので、今でも長拭きが上手な方が何人もいるのでしょう。雑巾をしつかり絞るのも上手ですよ。

今回は、生活のことを伺いました。次回は、行事のことを伺う予定です。お楽しみに。



DAY ACTIVITY REPORT

日中活動レポート

さやま園では日中活動を更に盛り上げようと新しい試みを始めました。「あおぞら」「くれあ」「みつぼし」「ひだまり」とグループにわかれ活動をしています。

「あおぞら」は、散歩のほかには地域の資源回収や草取り、回収してきた空き缶や牛乳パックをリサイクルしたり、園庭の花壇を整備したりしています。

「くれあ」はイタリア語で“創り出す”という意味があります。造型・手芸・陶芸をおこなっています。個々の作品は今後こちらでもお披露目したいと思っています。

「みつぼし」は“食を楽しむ、提供する”をモットーに地域のイベントへ参加したり、毎週金曜日には『みそ汁や』をOPENしています。

「ひだまり」は個々に趣味的活動をおこなっています。月に一度のひだまりデーには楽しいイベントを開催するとか。

そして、今年度から陶芸活動を再開しました。初心者から経験者の方まで新しい作品に精を出しています。「昔、作っていたのよ」「出来上がったらそれでご飯を食べたい」などいろんな声が飛び交っています。

各活動場のOPEN看板前には、利用者の方が待っています！
「もう、始まりますか〜？今日はなにをするの〜？」という声を毎朝聞くようになりました。

利用者さんたちの活動意欲がいろんな場面・場所で発揮されています！
『楽しかった・・また明日も来ます』この一言に尽きます。



■ 第30回 東京都障害者総合美術展“美のなかにふれあいがある”に、日中活動で制作した2作品が入選しました。それぞれの作品に込めた思いや、できた経緯を知ると、また違った視点で、鑑賞できますね。



田丸利枝さん 作品名:「おもいやり」 製作期間:約4か月

- ・作品にこめた想い：いまの世の中に「思いやる心」がとても少なくなった。お互いにもっと思いやりをもって、少しでも明るい未来にしてほしい。世界の犯罪や戦いをなくして、平和にしてほしい。それを私は“世界に発信したかった”
- ・作品に使った毛糸：数えられない!7色以上を使用!
- ・入選の時の感想：とても驚いたしうれしかった!来年の作品もすでに決まっています。それまで作品名はヒ・ミ・ツです!



さやま園くれあ有志 作品名:「パレット」

TV番組でスプーンを指のあいだに挟み絵具のパレットにしていた芸術家がありました。それをヒントに、利用者の方が好きな野菜の断片やちぎった布や手に絵の具をつけた「ポンポン絵」にスプーンのパレットをのせてみました。大好きな作業種の組み合わせに皆さん楽しそうに取り組んでいました。入賞!をねらっていましたが入選でも、「やったあ!!」と心の中ではガッツポーズ!!あおぞらグループが回収してきてくれたボトルキャップやコンビニでスプーンを集めてきたくださった職員の協力もあつての作品です。

担当職員:榎戸

「園長 NOTE」復活原稿

カルミアの発行が遅れてしまったため(汗)、時期はずれの文となり、一度ボツになりかけた「園長 NOTE」の原稿ですが、前ページの「パレット」作成時のことに触れているので、ここに掲載いたします。以下復活した「園長 NOTE」(幻のカルミア夏号編)、是非ご一読ください。

.....

集団のち・か・ら

夏休み、久しぶりに帰省し、郷里の秋田の竿燈祭り、隣県青森のねぶた祭りを見た。いずれも勇壮で100万人単位の観光客が、その幻想的な『灯(火)』祭りを堪能する。まさに観客とともに、一体感を作り上げるこれらの灯と闇は、和太鼓と笙(ふえ)と鉦(かね)の囀りが、強烈なビートで五感を揺すぶり、トランス状態に似た興奮を作り出す。日本人が、日本のふるさとを強く意識する瞬間でもある。

規模は違うが、さやま園の夏祭りや運動会などでも同様の一体感を感じることがある。強烈なビート感こそないが、確かに一体感は生まれる。達成感と言い換えてもいいが、そこに参加する利用者、職員、ボランティアがたしかに一体感を感じている。その瞬間の関係性は、まったくの掛け値なしの平等となり、仲間となって肩を組む。そこに理想的な福祉の形が見えてくる。

夏の障害者美術展に出展する作品をみんなで仕上げている場面に、その一体感を見た。何かの目的に向かって心を一つにしてまい進する。そう心がけるだけで、何かが違ってくるのかもしれない。威勢のいい掛け声とともに、「どっこいしょー、どっこいしょー」「らっせらー、らっせらー」

園長 宮本浩史

.....

編集後記

カルミアの新デザインは如何でしたでしょうか？
初めての編集作業でしたが発行することが出来ました。
今回はテーマを決め個々に進めていきましたが、初めてのため
試行錯誤で時間ばかり過ぎて気持ちが焦るばかり・・・。
これからは色々な話題を提供し、楽しくほっこりする様なカルミアにしていきたいです。

職員のつぶやき

甥っ子が10か月を迎えました。ハイハイもできるようになり、つかまり立ちも覚え、成長の速さに驚きでいっぱいです。最近ではよく変な踊りをしながら歌を歌っています。またお風呂では、大はしゃぎ!誰に似たのかワンパクです。

姉から毎日のように写真や動画が送られてきます。その写真を見るだけでニヤニヤ・・・。「赤ちゃんは天使」そんな言葉をよく耳にしますが、身を持って実感しております。本当に天使です。ジーっと目を見つめニカッ!と笑う甥っ子は罪深い男です。おばちゃんは完全にやられています。貢ぎ放題です。

また、父や母が甥っ子をあやしている姿は、末っ子の私には新鮮でした。初めてみる、赤ちゃんを可愛がる姿。私もあんな風にされていたのかな～なんて、しみじみ思ってしまう。

生活支援員 早川睦未



行事

《報告》7月：縁日・8月：夏祭り
《予定》10月：さやま園祭・12月：クリスマス会

その他

ホール前トイレがバリアフリーになり、男性も使用できるようになりました。